

市立小中学校の在り方に関するアンケート（案）

【目的】

義務教育9年間を見通し、中長期的な展望に立って、持続可能な社会の創り手として必要な資質能力を育むための良好な学習環境や、円滑な学校運営を行える教育環境に向けた検討をするにあたり、保護者・学校教職員の考えを推察するため、アンケートを実施する。

【対象】

保護者・・・市立中学校1・2年（約1,700人）

市立小学校（約5,320人）

市立幼稚園（約320人）

※アンケート回答者として、園児・児童・生徒が複数おられる場合は、年長者の状況で回答。

教職員・・・市立小中学校の全教職員

【期間】

令和4年2月下旬～3月中旬

【方法】

マイクロソフト フォームズを活用したネット回答

ネット回答ができない方は、別途、紙でのアンケート回答（学校・幼稚園から配布）

【種別】

「保護者アンケート」「学校教職員アンケート」の2種

【調査項目】

	保護者	教職員
(1) 属性について		
1. 通園・通学・通勤している学校	○	○
2. 学年	○	
(2) 小学校の規模について		
1. 小学校での学級数について	○	○(小のみ)
2. 1で選択された学級数の理由	○	○(小のみ)
(3) 中学校の規模について		

1. 中学校での学級数について	○	○ (中のみ)
2. 1で選択された学級数の理由	○	○ (中のみ)
(4) 通学距離について		
1. 小学校での通学距離について	○	○ (小のみ)
2. 中学校での通学距離について	○	○ (中のみ)
(5) 教育環境の整備について		
1. 学校に求めることについて	○	○
2. 将来の学校のために望ましい施策について	○	○
3. これから学校に期待する役割・機能について	○	○

木津川市立小・中学校の 今後の在り方検討に関するアンケート調査票

■■ご回答いただくうえでの注意点■■

- ① 回答は保護者の方がお答えください。
※市立小・中学校に通われている複数の児童生徒がおられるご家庭は、年長者の児童生徒に該当する情報を回答ください。
- ② 回答は1人1回でお願いします。
- ③ 回答に迷う場合は、保護者の方の考えに近いものをお選びください。
- ④ スマートフォン等でウェブ回答をされる場合は、
右のQRコードを読み込んでください。

QRコード

紙により回答される場合は、〇月〇日（〇）までに学校の学級担任へ提出してください。

- ⑤ アンケートに関するお問い合わせは、次の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

学校教育課学校教育係

電話：0774-75-1230

問1-1

あなたのお子様が通園・通学しているのはどこの学校ですか。1つ選択してください。

01. 木津幼稚園	02. 相楽幼稚園	03. 高の原幼稚園
11. 木津小学校	12. 相楽小学校	13. 高の原小学校
14. 相楽台小学校	15. 木津川台小学校	16. 梅美台小学校
17. 州見台小学校	18. 城山台小学校	19. 加茂小学校
20. 恭仁小学校	21. 南加茂台小学校	22. 上狛小学校
23. 棚倉小学校		
31. 木津中学校	32. 木津第二中学校	33. 木津南中学校
34. 泉川中学校	35. 山城中学校	

問1-2

あなたのお子様は何年生ですか。1つ選択してください。

01. 3歳児クラス	02. 4歳児クラス	03. 5歳児クラス
11. 小学1年生	12. 小学2年生	13. 小学3年生
14. 小学4年生	15. 小学5年生	16. 小学6年生
21. 中学1年生	22. 中学1年生	23. 中学3年生

問2 小学校の規模について

問2-1

小学校での学級数について、法令の標準は「1学年あたり2～3学級（1学校あたり12～18学級）」になっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか。1つ選択してください。

1. 1学年あたり1学級	2. 1学年あたり2学級
3. 1学年あたり3学級	4. 1学年あたり4学級
5. 1学年あたり5学級以上	

問2-2

問2-1で選択された学級数の理由を2つお答えください。

1. 一人ひとりに目が行き届いた教育ができる。
2. 学年を超えた友達ができやすい。
3. 一人ひとりに活動の場があり、活動時間が十分にとれる。
4. 児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える。
5. クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。
6. 同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる。
7. 様々な能力や個性を持つ先生と出会える。
8. 社会性や協調性を養う機会に恵まれる。
9. その他（自由記載）

（

）

問3 中学校の規模について

問3-1

中学校での学級数について、法令の標準は「1学年あたり4～6学級（1学校あたり12～18学級）」になっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか。1つ選択してください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 1学年あたり1～2学級 | 2. 1学年あたり3～4学級 |
| 3. 1学年あたり5学級 | 4. 1学年あたり6学級 |
| 5. 1学年あたり7学級以上 | |

問3-2

問3-1で選択された学級数の理由を2つお答えください。

1. 一人ひとりに目が行き届いた教育ができる。
2. 学年を超えた友達ができやすい。
3. 一人ひとりに活動の場があり、活動時間が十分にとれる。
4. 生徒が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える。
5. クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。
6. 同じ生徒とずっと同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる。
7. 様々な能力や個性を持つ先生と出会える。
8. 社会性や協調性を養う機会に恵まれる。
9. その他（自由記載）

（

）

問4 通学距離について

問4-1

小学校での通学距離について、法令の標準は「おおむね4キロメートル以内であること」になっていますが、どの程度までが通学可能範囲と思われますか。1つ選択してください。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 1 km以内 | 2. 2 km以内 | 3. 3 km以内 |
| 4. 4 km以内 | 5. 距離は問わない | |

問4-2

中学校での通学距離について、法令の標準は「おおむね6キロメートル以内であること」になっていますが、どの程度までが通学可能範囲と思われますか。1つ選択してください。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 2 km以内 | 2. 4 km以内 | 3. 6 km以内 |
| 4. 8 km以内 | 5. 距離は問わない | |

問5 教育環境の整備について

今後の社会は、人口知能など高度な先端技術や国際化が日常生活にまで浸透・定着するとともに、一方で気候変動や感染症など、予測困難な時代でもあります。

そのような社会を生きる子どもたちに、義務教育段階でしっかりと自立できる力を培うことが大切と考えます。

そのための本市の教育環境の在り方について、児童生徒数の減少傾向や学校施設の老朽化の進行を踏まえ、将来世代の児童生徒の利益を反映する立場に立って、次からの設問にお答えください。

問5-1

学校の役割について、重要であると考える次の項目について、あなたの考えに近いものの数字1つに○をつけてください。

項目	そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
1. 基礎的な学力を身につけること	5	4	3	2	1
2. 多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばすこと	5	4	3	2	1
3. 社会のルールやマナーを身につけること	5	4	3	2	1
4. 人間関係を学ぶこと	5	4	3	2	1
5. 安心安全な施設設備環境を確保すること	5	4	3	2	1
6. 義務教育9年間を通じ、系統的・継続的な学習を行うこと	5	4	3	2	1
7. 情報教育や外国語教育を推進すること	5	4	3	2	1
8. SDGs（持続可能な開発目標）に関する教育を行うこと	5	4	3	2	1
9. 伝統や文化などの郷土に関する教育を行うこと	5	4	3	2	1
10. 体力向上や健康保持増進を図る教育を推進すること	5	4	3	2	1

問5-2

義務教育9年間を通じ、児童生徒一人ひとりの能力・適性等を最大限に伸ばせる学校の規模・配置・学校体系の在り方として、望ましいと考えることについて1つ選択してください。

1. 小学校の統廃合
2. 小学校中・高学年は統廃合するが、低学年は分校として存置する
3. 小中一貫型学校・義務教育学校
4. 他機能の施設との複合型
5. 通学区域の変更
6. 学校選択制
7. 現状のままでいい
8. その他（自由記載）

（ ）

問5-3

市立小中学校は、各地域にあることから、地域コミュニティの中核としての役割があります。今後に期待する役割・機能について、あなたの考えに近いものを2つ選択してください。

1. 地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点
2. 防災拠点として安心・安全な施設
3. 他機能（子育て支援・高齢者福祉等）との複合化
4. その他（自由記載）

（ ）

問6

その他意見があればご記入ください。（最大100文字程度）

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※本アンケートは無記名で封筒に入れ、お子さまの学級担任へ提出をお願いします。

(資料) 市立小・中学校区の児童生徒数推計

各小・中学校区毎の対象学年人口推計のため、進学状況により実際の児童生徒数とは異なります。

[小学校]

(単位：人)

学校名	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
木津	527	382	355	360	360
相楽	450	385	333	330	324
高の原	308	287	289	316	299
相楽台	246	273	255	250	248
木津川台	420	191	204	334	411
梅美台	1,004	694	455	363	458
州見台	677	480	366	384	471
城山台	1,017	1,919	1,483	778	482
加茂	280	222	202	249	263
恭仁	47	36	36	42	41
南加茂台	161	106	135	160	155
上狛	156	102	118	137	133
棚倉	292	224	149	174	204

[中学校]

(単位：人)

学校名	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
木津 ※	654	836	976	679	567
木津第二	684	487	388	374	471
木津南 ※	924	1,029	1,037	607	522
泉川	317	246	173	197	232
山城	270	214	160	137	161

※2025年以降の数値は、城山台1～8丁目を木津中学校区、城山台9～13丁目を木津南中学校区としています。

推計方法

これまでの人口動向、社会移動・自然増減の推移や傾向などにより、コーホート要因法を用いています。

コーホート要因法は、出生・死亡・移動の人口変動を要因別に設定し、その変化率に基づいて将来人口を推計できる一方、今回の推計では2010年～2015年を基準とした変化率を用いるため、「推計の前提に含まれない新たな変化」や「想定していた変化のペースが変わった」等の影響は反映されません。

そのため、新興住宅地の推計結果を例にした場合、現在の小学生が20年後、30歳前後になった時、その小学生が、市内在住なのか市外転出しているかという事については、現在の移動の変化率を用いて推計をするため、変化のペースが変わることが予測され、当推計と異なることが想定されます。